

科目名称	芸術心理学		授業コード	20001322	
担当教員	担当未定（教員）				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／ 芸術・文化
年次	1	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別					
遠隔の場合の主なツール					
履修制限等	履修者数によっては履修制限をかける場合がある。				
授業の目的と到達目標（学習成果）	美しいと感じる心の仕組み、創造力の源泉はどこにあるのかについて脳の仕組みから理解する。芸術家の意図や手法がどのように脳の働きや仕組みを反映しているかについて、心理学的研究手法や神経科学的研究手法を用いた数々の研究知見から理解する。				
授業の概要（内容）	脳を通してどのようにアートを読み解くことができるのか、その基本的な背景や問題点について概説する。アートを美的感性や社会文化的な観点からではなく、生物学的な所産、進化の所産という視点から考察する。さらに、発達障害や脳の機能障害、精神障害が創造性にどのような影響を与えるのか説明する。アートの表現の法則性が作品の成り立ちの背後にある視覚情報処理や脳の働きをどのように反映しているかについて説明する。				
授業計画	1：オリエンテーション/芸術心理学とは何か 2：欲しがる脳・依存する脳 3：美の個別性と共通性 4：美に対する脳科学の挑戦 5：進化の問題としてのアート 6：古代アート―道具を使うということ 7：創造性の遺伝子はあるのか 8：心の発達と病 9：アウトサイダー・アート 10：練習によって変化する脳と身体 11：創造性と脳のラテラルティ 12：記憶の仕組みと伝統芸能一言葉にすることの弊害 13：アートとピークシフト仮説 14：規則性と曖昧性の脳の働き 15：絵画表現と脳での問題解決				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	・使用テキストと配布資料を活用し、授業ごとに必ず復習をする。 ・その他自分が興味をもった分野について、専門書や学術論文を読む。また、学術研究を踏まえた一般書を読む。新聞やテレビ、インターネットから心理学や芸術作品に関する知識をもてるよう心がける。				
評価方法	全授業後課題のうち3分の2以上提出し、かつ期末レポートを提出した者を単位認定の評価対象とする。 ・授業後課題（60%） ・期末レポート（40%）				
課題・試験に対するフィードバックの方法	授業アンケートのコメントフィードバック時に全体的な講評として紹介する。				
使用テキスト	川畑秀明（著）『脳は美をどう感じるかアートの脳科学』（2012年）ちくま新書（ISBN：9784480066862）				
参考テキスト・URL	・苧阪直行（編）『社会脳シリーズ4美しさと共感を生む脳神経美学からみた芸術』（2013年）新曜社（ISBN：9784788513587） ・梅本堯夫・大山正（編著）『新心理学ライブラリ1こころの科学を知る』（2014年）サイエンス社（ISBN：9784781913476）				
各自準備物					
実習費					
その他	授業形態を遠隔授業_オンデマンド方式とする。 配布物及び提出物は、KDUポータルのカラダプロファイル、またはMicrosoft_teams及びformsを使用する。 使用ツールについては、適宜連絡をする。				

科目名称	日本の歴史	授業コード	20001720
担当教員	熟 美保子		
単位数	2	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2021
科目分類	歴史・文化・社会／人間・歴史・社会		
開講学期	後期		
関連資格			

対面・遠隔の別	遠隔授業と対面授業の両方で実施するが、コロナの収束状況によっては対面授業のみとなる
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル
履修制限等	2015 年度以降入学生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	日本の対外関係史について基礎的知識を習得する。また、現代に根ざす諸問題を歴史的に理解する。
授業の概要（内容）	この授業では古代から現代までの日本の歴史について、国際関係を中心に概説的に講義する。たとえ海に囲まれた島国であっても、いつの時代でも外部と一切関わりを断つことは出来ず、日本は成り立たない。国際関係を基軸に講義することで日本のあゆみを知り、現代社会につながる諸問題について理解を深めていく。
授業計画	1：ガイダンス 2：「日本」のなりたちについて学ぶ 3：遣唐使について学ぶ 4：古代の出入港地について学ぶ 5：元寇と倭寇について学ぶ 6：西洋人との出会いについて学ぶ 7：日本人の海外進出について学ぶ 8：朝鮮出兵について学ぶ 9：「鎖国」の成立過程について学ぶ 10：近世の日朝関係について学ぶ 11：長崎に来航した異国人について学ぶ 12：神戸の居留地について学ぶ 13：近代知識人の思想について学ぶ 14：満鉄がもたらしたものについて学ぶ 15：まとめ
実務経験のある教員	
授業時間外学習	日本のおかれた現状を知るために、日頃から新聞やニュースなどを見る習慣を身につける。
評価方法	定期試験（80%）・コメントシート（20%）
課題・試験に対するフィードバックの方法	
使用テキスト	毎回プリントを配布する。
参考テキスト・URL	適宜紹介する。
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	世界の歴史	授業コード	10001730
担当教員	紫垣 聡		
単位数	2	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2021
科目分類	歴史・文化・社会／人間・歴史・社会		
開講学期	前期		
関連資格			

対面・遠隔の別	遠隔授業（オンデマンド）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル
履修制限等	2015年度以降入学生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	（１）現代とは異質な社会や文化のありようを通じて、他者理解のための多角的な視点を身につける。 （２）近代世界の成り立ちと今日的な諸問題の経緯について、歴史的に説明できる。
授業の概要（内容）	今日の世界情勢はますます混迷を深めており、グローバル化が進むなか日本社会の先行きも容易に見通せない。このような世界を生きていくうえで、教養としての歴史は重要である。いまとは異なる過去の社会のしくみと成り立ちを知ることは、わたしたちが生きている世界の問題を理解するだけでなく、時代の変化に適応できる思考力を養うことにつながる。 授業前半（第2～6回）：近代以前のさまざまな時代・地域における文化や社会、それらの交流を概観する。授業後半（第7～14回）：近代世界の成り立ちとその変遷、国際社会と日本の関わりについて講義を行い、現在わたしたちが直面する諸問題についての理解を深める。
授業計画	1：イントロダクション 2：キリスト教世界の文化と社会 3：イスラーム世界とヨーロッパ 4：近代以前の都市社会 5：中世の戦争と平和 6：「辺境」への／からのまなざし 7：世界の一体化のはじまり 8：ネイションの形成 9：日本の近代化と国際社会 10：近代西洋が見たアジアと日本 11：大衆の世界大戦 12：冷戦期の世界と日本 13：新自由主義の世界 14：国民国家のゆくえ 15：まとめ
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業を理解するために、世界史の基本的な知識は必要である。高校の教科書などであらかじめ復習しておくこと。また、国際情勢や社会の動向に関心を持つことは学習成果の充実につながる。新聞や読書を通じて世の中への関心を高めてほしい。
評価方法	第2～14回授業の課題（学習コメント）（50%）と、期末レポート（50%）により評価する。
課題・試験に対するフィードバックの方法	各回の課題（学習コメント）については授業の翌週に、提出された課題に対する全体的な講評、個別の質問への回答などの形でポータル上に公開する。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	授業のなかで適宜紹介する。
各自準備物	
実習費	
その他	受講者はポータルに置かれた教材（レジュメ、解説、図版等資料）を利用して各自で学習し課題に取り組む。動画配信は行わない。

科目名称	人文地理学	授業コード	10001750
担当教員	石原 肇		
単位数	2	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2021
関連資格		科目分類	歴史・文化・社会／人間・歴史・社会
		開講学期	前期

対面・遠隔の別	遠隔授業（オンデマンド授業）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル及び Teams、Stream、Forms
履修制限等	2015 年度以降入学生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	社会との関わりの中で持続的に創造的な活動ができる人材を目指して、人文地理学の基礎を学ぶ。 <地理学的なものの見方・考え方>について理解し、それをを用いて身近な事象を捉えることができるようになる。
授業の概要（内容）	本授業は、<地理学的なものの見方・考え方>について幅広く解説するものである。この見方・考え方は、意識されていない場合も多いが、実は私たちの生活の様々なところに活用されている。もちろん建築やまちづくり、工業デザインなどとも密接な関係があるだろう。本授業では、教養としての地理学を学ぶとともに、身近な事象を新たな視点から捉えるきっかけを提供し、将来、個々の学生が専攻する分野でも活かせるものであることを解説する。各回の小課題とレポート作成を通じて、地域の調査学習を実施し、自ら調査する方法の理解を促す。
授業計画	指定のテキストに沿って、基本的に各回でテキストの1つのテーマを取り上げ解説する。 1：イントロダクション 2：人口 3：都市 4：郊外と大都市圏 5：小売業、 6：サービス業、観光 7：交通 8：工業 9：農業 10：芸術工学との関連① 11：芸術工学との関連② 12：国土政策・都市政策 13：エネルギー・資源問題 14：地域調査、地形図からみる人間生活 15：地理学をどんな場面で活かすか なお、上記の1および15はテキストによらず人文地理学の導入とまとめとする。 また、9はテキストに掲載されていない事項であるが、経済地理学的な観点から不可欠な事項と考え、取り入れる。 さらに、10・11もテキストには掲載されていない事項であるが、芸術工学を専攻する学生を対象とすることから、芸術工学と地理学との関連性について検討する機会として設ける。
実務経験のある教員	人文地理学をよりよく理解する上で地域の実情を的確に認識することが必要である。 地方公務員（25年勤務）として地域の環境保全や活性化、防災などに携わってきた経験を活かし、実際の現場で生じている具体例も合わせて解説することで、テキストに記載された事項の理解を促す。
授業時間外学習	ふだん通っている地域はどのように形成されたのか、なぜあんな場所に住宅が建っているのか、新聞・ニュースに出てくる地名は一体どこなのか、というように、空間に対する意識を日常的に持つこと。 テキストの次回講義の章を必ず事前に読んでくること。 次回講義の小課題で課されるであろう事項について事前に調べておくこと。 各回の小課題で解答した内容については、そのポイント等を必ずノート等にまとめるなど、復習に励むこと（そのことが3回課されるレポート作成に役立つことになる）。
評価方法	授業中に課す小課題（40%）、レポート1（20%）、レポート2（20%）、レポート3（20%）
課題・試験に対するフィードバックの方法	授業中に課す小課題については、適宜講義の中で受講者の解答をふまえた解説等を行う。
使用テキスト	『現代社会の人文地理学』稲垣稜著古今書院、2014
参考テキスト・URL	参考文献は授業中に紹介する。
各自準備物	使用テキスト
実習費	
その他	

科目名称	文化人類学 ①②		授業コード	10101512	
担当教員	行木 敬				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／人間・歴史・社会
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期/後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面。ただしコロナ流行の状況によっては遠隔（オンデマンド）。				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル、および Office365 (OneDrive、Forms、Stream)				
履修制限等	特になし				
授業の目的と到達目標（学習成果）	この授業の目的は、デザインやアートの理解や創作に有用な、異文化についての知識や各種の文化理論を修得することです。 ・目標1：文化人類学の基本的な視座である文化相対主義を説明することができる。 ・目標2：機能主義、構造主義、象徴論、境界論など、各種文化理論を説明することができる。 ・目標3：それらの理論を使い、自分の身近にある様々な文化事象を分析することができる。				
授業の概要（内容）	世界各地の文化、特に信仰（世界宗教から各地の伝統的な民間信仰、神話や民話、呪術的儀礼など）を事例にとりながら、文化人類学の視点、および分析のための諸理論を解説していきます。 授業にあたっては、私自身のニューギニア調査など遠い異文化の事例と、ポップカルチャーなどみなさんに身近な自文化の事例を、同等に取り上げ、同じ理論で分析していくことで、それらが地続きの事象であることを示したいと考えています。				
授業計画	01：イントロダクション — 相対主義編1：異文化理解の難しさ 02：不思議の国の昼休み — 相対主義編2：自文化の相対化と異文化理解 03：一神教における「神」とは何か？ — 相対主義編3：信仰をめぐる初期理論 04：私は世界で世界は私 — 相対主義編4：初期理論の問題点1 — アジアの宗教をめぐる 05：鬼はソト、福はウチ — 相対主義編5：初期理論の問題点2 — 呪術をめぐる 06：魔法少女とメラネシア — 相対主義編6：初期理論の問題点3 — 移動する呪力をめぐって 07：お父さんのいない島 — 相対主義編7：フィールドワークと新しい文化観 08：魂を落とした話を理解する — 相対主義編8：異文化理解の方法 09：妖怪たちの社会的機能 — 分析理論編1：機能主義 ex：アスディワルの奇妙な冒険 — 分析理論編2：構造主義（関心がある学生向けのビデオ講義） 10：オバケの作り方・神さまの作り方 — 分析理論編3：境界論 11：そうだ、カップのせいにしよう。 — 分析理論編4：解釈論（1）解釈を通じた文化の変化 12：日本の寿司とアメリカのSUSHI — 分析理論編4：解釈論（2）解釈を通じた異文化の受容 13：病を投げ捨てる方法 — 分析理論編5：象徴論 = 治癒儀礼の論理、その1 14：呪医は何を治したのか？ — 分析理論編6：癒しとコミュニティ = 治癒儀礼の論理、その2 15：私を世界につなぎ直すための物語 — 分析理論編7：物語論 = 治癒儀礼の論理、その3				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	授業後に「第〇回の復習」というキーワード入力フォームを公開します。ここに、その日の授業で書き取ったキーワードを入力、送信することで出席とします。授業への質問・コメントもこのフォームで収集します。返事は次回授業の冒頭でおこないます。				
評価方法	上記「第〇回の復習」には、授業内容を確認するミニテストが時々付きます。これら全8回のミニテストの点（計40点）と、期末レポートの点（60点）の合計で、最終的な成績を算出します。 期末レポートには3つの採点ポイントを設けます。詳しくは初回の授業で説明します。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	期末レポートへのコメント、および出席状況やミニテストの正答状況を加えた「採点明細」という書類を、受講生ひとりひとりに作成し、ダウンロード可能な形で公開する予定です。				
使用テキスト	教科書は使用しません。詳細なレジメを毎回配布します。				
参考テキスト・URL	授業進行に合わせて紹介していきます。				
各自準備物					
実習費					
その他					

科目名称	日本民俗学 ①		授業コード	10102561	
担当教員	志賀 祐紀				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／ 人間・歴史・社会
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	遠隔授業
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	(1) 日本の伝統文化について理解し、2つ以上の具体的な民俗の説明ができるようになる。 (2) 日本の伝統文化と現代、或いは芸術やデザインとの関わりについて理解し、2つ以上の具体的な事例を説明できるようになる。 (3) 自らの生活の場における民俗の諸相を調べ、具体的に述べるができるようになる。
授業の概要（内容）	日本民俗学とは、日本の伝統文化を対象として、日本とは、或いは日本人や日本文化とは何かについて考え、明らかにしようとする学問である。昨今、民俗学の視点は多様化している。研究者が現代社会の様々な現象に注目したり、アーティストやデザイナーが民俗学的関心を持ちながら活動したりするなどの事例が見られる。つまり、日本民俗学とは決して過去の日本の伝統文化に関心を持つ者だけの学問ではなく、現代に生きる者、そしてアーティストやデザイナーなどの表現者にも関わりがある学問なのである。本講義では、年中行事、信仰、祭りなどの日本の伝統文化の具体的な事例を取り上げながら学習する。さらに、現代社会や、芸術、デザインと民俗学の関わりについても言及する。
授業計画	1：日本民俗学とはなにか 2：民俗学の成立と柳田国男 3：『遠野物語』を読む 4：年中行事と民俗 5：信仰の民俗 6：怪異の民俗 7：女の民俗 8：祭りの民俗 9：現代と民俗 10：芸術家のフィールドワーク 11：写真と民俗 12：デザインと民俗 13：メディアと民俗 14：現代アートと民俗 15：まとめ
実務経験のある教員	
授業時間外学習	自分の家や住んでいる地域でおこなわれる行事やしきたりを普段から注意深く観察すること。
評価方法	毎回の授業のミニレポート 50%、学期末レポート 50%。 ミニレポート提出が10回分に 満たない場合はE評価とする。
課題・試験に対するフィードバックの方法	次回の授業日でコメントシートや課題レポートの中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介をする。
使用テキスト	適宜プリントを配布する。
参考テキスト・URL	その都度指示する。
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	日本民俗学 ②		授業コード	20202561	
担当教員	志賀 祐紀				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／ 人間・歴史・社会
年次	1	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	遠隔授業
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	(1) 日本の伝統文化について理解し、2つ以上の具体的な民俗の説明ができるようになる。 (2) 日本の伝統文化と現代、或いは芸術やデザインとの関わりについて理解し、2つ以上の具体的な事例を説明できるようになる。 (3) 自らの生活の場における民俗の諸相を調べ、具体的に述べるができるようになる。
授業の概要（内容）	日本民俗学とは、日本の伝統文化を対象として、日本とは、或いは日本人や日本文化とは何かについて考え、明らかにしようとする学問である。昨今、民俗学の視点は多様化している。研究者が現代社会の様々な現象に注目したり、アーティストやデザイナーが民俗学的関心を持ちながら活動したりするなどの事例が見られる。つまり、日本民俗学とは決して過去の日本の伝統文化に関心を持つ者だけの学問ではなく、現代に生きる者、そしてアーティストやデザイナーなどの表現者にも関わりがある学問なのである。本講義では、年中行事、信仰、祭りなどの日本の伝統文化の具体的な事例を取り上げながら学習する。さらに、現代社会や、芸術、デザインと民俗学の関わりについても言及する。
授業計画	1：日本民俗学とはなにか 2：民俗学の成立と柳田国男 3：『遠野物語』を読む 4：年中行事と民俗 5：信仰の民俗 6：怪異の民俗 7：女の民俗 8：祭りの民俗 9：現代と民俗 10：芸術家のフィールドワーク 11：写真と民俗 12：デザインと民俗 13：メディアと民俗 14：現代アートと民俗 15：まとめ
実務経験のある教員	
授業時間外学習	自分の家や住んでいる地域でおこなわれる行事やしきたりを普段から注意深く観察すること。
評価方法	毎回の授業のミニレポート 50%、学期末レポート 50%。 ミニレポート提出が10回分に満たない場合はE評価とする。
課題・試験に対するフィードバックの方法	次回の授業日でコメントシートや課題レポートの中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介をする。
使用テキスト	適宜プリントを配布する。
参考テキスト・URL	その都度指示する。
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	法学(日本国憲法を含む) ①②		授業コード	10101590	
担当教員	脇田 吉隆				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／ 人間・歴史・社会
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期/後期
関連資格	教職				

対面・遠隔の別	遠隔授業（リアルタイム授業）				
遠隔の場合の主なツール	KDUポータル及びZoom				
履修制限等					
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>私たちは一人の人間として社会で生活をしている。その中には法律に関係することは意外と多い。私たちは国家や社会の構成員として一定のルールを定めて生活している。この授業を学ぶ学生は日常生活における社会問題を社会現象として捉え、その法律・憲法問題を法・憲法現象として捉えて、具体的な社会現象を法学的・憲法的に解決する方法を習得することができることを授業の目的とする。</p> <p>一人ひとりの個人が持っている「平和な社会で自由で豊かで幸せに暮らしたい」という要望を憲法的に実現する方法を論じることができることを到達目標とする。</p>				
授業の概要（内容）	<p>憲法学をどのような方法で学ばかを理解し、日常生活と法の関わりの中で、憲法の基本原理は何かを学び、具体的な法現象・憲法現象を挙げて法学的・憲法的に解決する方法を学ぶ。人権問題、統治機構についての基本的理解と問題解決方法を学ぶことにする。</p>				
授業計画	<p>1：法律学・憲法学の学び方これまでの教育の問題点と新しい視点について 2：日常生活における法と憲法のかかわり 法と憲法は何か 人の一生と法 3：日本国憲法の基本原理 1 国家の最高法規近代憲法から現代憲法 4：日本国憲法の基本原理 2 基本的人権の尊重、国民主権、平和主義 5：日本国憲法の人権問題 1 人権の享有主体外国人の人権 6：日本国憲法の人権問題 2 平等権法 の下の平等 7：日本国憲法の人権問題 3 自由権 表現の自由とプライバシー 8：日本国憲法の人権問題 4 自由権 結社の自由と通信の秘密 9：日本国憲法の人権問題 5 社会権 生存権 10：日本国憲法の人権問題 6 社会権 教育を受ける権利 11：日本国憲法の統治機構 1 立法機関としての国会 12：日本国憲法の統治機構 2 行政機関としての内閣 13：日本国憲法の統治機構 3 司法機関としての裁判所 国民の司法参加 14：日本国憲法の統治機構 4 地方自治 15：全体のまとめ及び授業内テスト</p>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	授業の最後に次回のテーマを知らせるので、参考テキストで30分の事前学習をしておくこと。				
評価方法	授業内テスト（1/2）、毎回授業で提示する課題レポートと確認テスト（1/2）の割合で総合的に評価する。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	<p>毎回授業時間に提出してもらったレポートを第14回の授業で提出状況を確認して解説する。 第9回目に確認テストを行う。 第15回目の授業で毎回授業の振り返りとして、再度テーマを選んでもらいレポートを書いてもらう。</p>				
使用テキスト					
参考テキスト・URL	播磨信義・上脇博之・木下智史・脇田吉隆・渡辺洋編著 『新・どうなっている！？日本国憲法』 [第3版]「第7刷」 法律文化社 2020年9月				
各自準備物					
実習費					
その他	<p>第1回目に授業の進め方について話し合い、ルールを決めるので必ず出席すること。 毎時間の授業計画のレジュメと参考テキストの該当する資料は事前にKDUポータルに添付します。 毎回授業で提示する課題レポートは授業終了時から次の授業開始までにKDUポータルに提出すること。</p>				

科目名称	現代社会論	授業コード	20001740		
担当教員	エルナンデス アルバロ				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	人間・歴史・社会
年次	2	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	遠隔授業（リアルタイム）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルと「office 365(Teams 等)」
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	この授業では現代社会の成り立ちについて考えるための基礎を学ぶ。実例を踏まえながら社会科学の考え方や基礎概念を身につけることで、自分の日常生活と社会との接点を自分なりに考え、現代社会についての理解を深めることになる。
授業の概要（内容）	この授業の重点は単に知識を積み重ねるより、むしろ社会科学の考え方を身につけることにある。「近代」、「国家」、「資本主義」と「イデオロギー」という四つの概念に焦点を合わせ、それらの概念をツールにして、毎日のニュース、恋愛や人間関係、メディア表現、文化政策、広告分析、キャラクター、SNS など、身近な現実について考察する。授業で学ぶ基礎概念を使って、自分の意見をまとめた短いレポートの書き方練習も行う。
授業計画	1：授業について：社会について考える 2：社会科学の考え方：〈行為〉、〈秩序〉と〈価値〉—「私たちは自由？」 3：「近代」の検討：〈世界〉と〈私〉のつながりを問い直す 4：「近代」の検討：友情、恋愛と家族—気持ちのつながり 5：「近代」の検討：近代の二つの歩み—コミュニティリズムとアナキズム 6：「資本主義」の検討：資本の再生産を求める社会—労働、生産、消費で生きる 7：「資本主義」の検討：市場社会の合理性と非合理性 8：「資本主義」の検討：情報社会における「価値の多様性」可能でしょうか？ 9：「近代国家」の検討：個人を超える、「政治的共同体」と「想像の共同体」 10：「近代国家」の検討：文化政策からみる表現と国家 11：「近代国家」の検討：国民国家の限界と「人間の条件」 12：「イデオロギー」の検討：「文化」も「イデオロギー」でしょうか 13：「イデオロギー」の検討：神話と物語から世界を見る 14：「イデオロギー」の検討：文化産業と表現の民主化—SNS で表現する 15：まとめ：社会は私たちの行為で成り立っている
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業前には、当該授業のキーワードやテーマについて調べ、それに関する自分の関心ポイント又は違和感などを簡潔にまとめること。まとめ方については第1回の授業で説明する。各授業の最後に、次の授業のキーワードとそれに関する関連文献などを伝える。
評価方法	毎回の授業のコメントシート 20%、アンケート 30%、試験の代わりレポート 50%。
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出されたレポート、コメントシート等を採点し、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできたコメントや意見を紹介する。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	井上俊/長谷正人編著『文化社会学入門—テーマとツール』（ミネルヴァ書房）、井上俊/伊藤公雄編著『社会学ベーシック』（世界思想社）シリーズ、特に：『第1巻自己・他者・関係』、『第2巻社会の構造と変動』、『第3巻文化の社会学』、『第7巻ポピュラー文化』
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	知的財産権入門		授業コード	20001621	
担当教員	齊藤 整				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	必修 (M、I 生限定)、 歴史・文化・社会/ 人間・歴史・社会
年次	2	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格	教職、学芸員				

対面・遠隔の別	対面授業 新型コロナウイルス感染症の状況によっては遠隔授業（オンデマンド）とする可能性あり
遠隔の場合の主なツール	Microsoft Teams Microsoft Stream
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	知的財産権に関する日々の話題にふれながら、意匠権・著作権をはじめとする知的財産権制度の基本を学び、創作活動を行う上で必要不可欠となる知識を習得する。
授業の概要（内容）	芸術の世界に身を置く人にとって、知的財産権、とりわけデザイン等と密接な関係を有する意匠権や著作権の知識はとても重要である。知的財産権の知識がなければ、自らの創作物に関する権利を守ることが困難となるだけでなく、創作の過程において他人の権利を侵害してしまうことにもなりかねない。
授業計画	1：知的財産権 [基礎知識Ⅰ：知的財産とは] 2：知的財産権 [基礎知識Ⅱ：条約・産業財産権・著作権の概要] 3：産業財産権：意匠権 [意匠、物品、登録要件] 4：産業財産権：意匠権 [保護形式・関連意匠・部分意匠など] 5：産業財産権：意匠権 [意匠の類似と意匠権] 6：産業財産権：その他 [商標権・特許権・実用新案権] 7：不正競争防止法 [デザインに関する不正競争行為] 8：著作権 [著作物と著作者] 9：著作権 [著作物性Ⅰ：人形・書体・ロゴ等の著作物] 10：著作権 [著作物性Ⅱ：絵画・写真等の著作物、二次的著作物] 11：著作権 [著作権Ⅰ：著作者人格権] 12：著作権 [著作権Ⅱ：著作権（財産権）] 13：著作権 [肖像権・パブリシティ権] 14：著作権 [著作権の利用、救済、制限] 15：まとめ
実務経験のある教員	弁理士として培ってきた経験をもとに、具体例等を交えつつ、実務的な観点から知的財産権の基礎知識について講義を行う。
授業時間外学習	随時、話題となった事件等をトピックとして取り上げる予定である。日頃から知的財産権関連のニュースに関心を持っておくこと。
評価方法	定期末試験にて評価。
課題・試験に対するフィードバックの方法	
使用テキスト	随時教材資料を配布
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	マーケティング論	授業コード	20001210
担当教員	三宅 敦		
単位数	2	授業形態	講義
年次	2	開講年度	2021
科目分類	歴史・文化・社会／人間・歴史・社会	開講学期	後期
関連資格			

対面・遠隔の別	・コロナウイルスの感染状況が収束した場合は、対面授業を基本とする。 ・収束していない場合は、遠隔授業（オンデマンド）とする。
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルと Teams ・課題提出は KDU ポータル。 ・授業資料は Teams で配信、共有。
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	マーケティング志向の行動とは何かを理解すること。 世の中の現象と企業のマーケティング行動を関連づけて考えるようになること。
授業の概要（内容）	マーケティングはお客様（顧客）の気持ちを取捨し、お客様が欲しい商品やサービスを提供し続けることで、お客様を満足し続けるための考え方と、そこから生み出される手段である。今日あなたが買ったその商品やサービスには、企業の様々な活動が取り込まれている。あなたが、何故、数多くある商品の中から、その商品を買うことにしたのか？その決定に企業の働きかけが影響を及ぼしている。さらに、あなたの行動そのものが、企業の行動に影響を与える。企業が顧客の動きを取り込みながら、顧客に働きかける。「マーケティング」にはそんな双方向の側面がある。 本講義では、そのようなマーケティングが世の中でどのような役目を果たしているのか、またマーケティングをうまく行うために理論がどのように役に立つのかを学ぶ。
授業計画	1：マーケティング発想の経営 2：マーケティング論のなりたち 3：マーケティングの基本概念 4：製品のマネジメント 5：価格のマネジメント 6：広告のマネジメント 7：チャネルのマネジメント 8：サプライチェーンのマネジメント 9：営業のマネジメント 10：顧客関係のマネジメント 11：ビジネスモデルのマネジメント 12：顧客理解のマネジメント 13：ブランド構築のマネジメント 14：ブランド組織のマネジメント 15. 社会責任のマネジメント
実務経験のある教員	本講義は、①実務経験教員（アパレル企業勤務 27 年）が、②アパレル企業で経営企画部門やブランド部門で経験した具体的事例を交えながら、授業を進める。
授業時間外学習	(対面授業の場合)授業内で、それまでの講義の理解度を確認するため、数回、小テストを行う予定である。授業時間外で復習を行って、準備して授業に出席すること。 (遠隔授業の場合) 毎回、学習内容に応じた課題を課す。授業終了後 3 日以内に提出すること。
評価方法	(対面授業の場合) 授業時間内小テスト：30%＋授業内提出レポート：10%＋期末試験：60%＋授業中の発言での加点 期末試験の未受講、出席が 10 回に満たない場合は E 評価（不可）となる。 (遠隔授業の場合) 毎回の課題：40%＋最終レポート：60% 毎回の課題提出が 10 回に満たない場合は、E 評価（不可）となる。
課題・試験に対するフィードバックの方法	(対面授業の場合) 小テストの解答、点数分布、平均点は次回にフィードバックする。 レポートの優秀な解答事例は、次回にフィードバックする。 (遠隔授業の場合) 毎回の課題は全員に共有する。 課題で優秀なものは、次回にフィードバックをする。
使用テキスト	講義のなかで適宜紹介・資料配布する。
参考テキスト・URL	『1 からのマーケティング』（第 3 版）：石井淳哉・廣田章光編 中央経済社
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	教育心理学	授業コード	10090003
担当教員	吉國 秀人		
単位数	2	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2021
関連資格	教職	科目分類	歴史・文化・社会 (2019・2020年度生のみ)
		開講学期	前期

対面・遠隔の別	対面授業
遠隔の場合の主なツール	
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	子どもの学びや発達に関する基本的な心理学の理論を学び、それらを用いて学校現場における子どもの学習や生活、行動を心理学的観点から理解できるようになる。教師としての資質を高め、教育・指導の在り方を心理学的な知見を取り入れて自分なりに考えていけるようになることを目指す。
授業の概要 (内容)	基本的な心理学的理論・発達理論・教授学習過程に関わる理論を幅広く紹介し、学校現場における児童・生徒に対する理解、指導、かかわり、クラス運営にどのように活用できるか検討する。また、学校現場で生じる様々な心理的問題を取り上げ、その対処法について共に考えていく。
授業計画	<p>1: 教育と心理学—教育心理学の特徴, 教育心理学の方法—</p> <p>2: 発達の基礎 (1)—発達とは, 発達に影響を及ぼす外因と内因</p> <p>3: 発達の基礎 (2)—乳幼児の発達と愛着理論, 認知発達理論, エリクソンの発達理論</p> <p>4: 発達の基礎 (3)—精神分析学と精神分析的発達理論, その他の発達理論, 発達と学習の関係—</p> <p>5: 学習の基礎 (1)—学習とは, 行動主義と学習, 学習の諸理論と学習のタイプ—</p> <p>6: 学習の基礎 (2)—記憶のメカニズム, 先行オルグ論と意味学習—</p> <p>7: 発達を踏まえた学習指導の工夫 (1)—学習者の誤概念を捉える方法と実例, 適性処遇交互作用—</p> <p>8: 発達を踏まえた学習指導の工夫 (2)—概念形成, 授業における援助の工夫の実際—</p> <p>9: 学習意欲をはぐくむ教育—動機付け, 知識獲得と意欲との関係—</p> <p>10: 集団の心理と教育評価 (1)—学びの場をつくる教師, 教育評価とは, 教育評価のタイプ—</p> <p>11: 集団の心理と教育評価 (2)—児童生徒理解のための視点, 情報の収集方法—</p> <p>12: 生徒指導の諸課題—カウンセリングと人間性心理学, 教育相談, 児童虐待への対応—</p> <p>13: 適応と障害の理解の基礎 (1)—学校不適応と精神疾患, 不登校のタイプ—</p> <p>14: 適応と障害の理解の基礎 (2)—特別支援教育とは, 発達障害の理解—</p> <p>15: まとめと討論—発達理解と教育の意義, 学習を支える指導を工夫し続ける教員とは—</p>
実務経験のある教員	
授業時間外学習	現在の教育問題や青少年を取り巻く環境に対してアンテナをはり、普段から新聞やニュースなどを確認するなど、教育現場の抱える問題や、現代の子どもが持つ問題について、自分なりに考えておくこと。
評価方法	授業への貢献度(30%)と期末試験(70%)
課題・試験に対するフィードバックの方法	次回の授業日で、課題の解説をしたり受講生からの質問を抜粋して紹介する。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	子安 増生・田中 俊也・南風原 朝和・伊東 裕司 (2015)『教育心理学 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣 本郷一夫・八木成和 (編) (2008)『シードブック 教育心理学』建帛社
各自準備物	ノート
実習費	
その他	教育を志す者としての態度で授業に臨むこと。現在の教育問題や青少年を取り巻く環境に対して素朴な疑問を持ち、心理学的理論と関連付けて考える準備をすること。 基礎教育・教職課程共通科目。

科目名称	生涯学習概論	授業コード	20091040		
担当教員	藤本 隆				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会 (2019・2020年度入 学生のみ) / 必修
年次	1	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格	博学				

対面・遠隔の別	混合授業（対面とリアルタイム）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル及び Teams
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の意義とその内容・方法を理解し、それらの基礎になった日本及び諸外国の生涯学習の発展と特質について説明できる。 ・生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育との関係及び高齢者教育との関係を理解し、基礎的な説明ができる。
授業の概要（内容）	<p>博物館・図書館は、社会教育施設の一つであり、その運営や活動の基本には生涯学習の視点が欠かせない。生涯学習の考え方とその歴史、家庭教育や学校教育、博物館以外で行われる社会教育の特質や基礎について紹介するとともに、博物館・図書館が生涯学習の体系の中で果たす役割について論じる。なお、ワークショップにより授業を進めるので、各自、積極的にグループでの討議、作業に参加すること。</p> <p>また、社会教育施設のフィールドワークを各自行った結果をまとめ、順番にプレゼンテーションを行う。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1：生涯学習概念の登場 2：生涯学習の内容 3：生涯学習概念の展開 4：日本における生涯学習の系譜 5：生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育 6：生涯学習の新たな流れ（ゲスト招請を予定） 7：生涯学習支援の特質と学習成果の評価 8：生涯学習・社会教育の方法の特質 9：社会教育行政の特徴と生涯学習振興行政・一般行政との関係 10：社会教育施設の役割 11：社会教育の専門職員 12：社会教育指導者と社会教育関係団体 13：学習情報の提供と学習相談 14：現代の社会教育施設に求められるもの 15：NPO、民間教育機関との連携（近隣のNPOの施設を見学予定）
実務経験のある教員	社会教育主事やNPOスタッフとして社会教育や生涯学習に携わった実務経験を活かし、実際の事例や現場での課題を中心に、生涯学習の基礎について講義する。
授業時間外学習	各自、社会教育施設のプレゼンテーションに備え、近隣生涯学習施設のフィールドワークや調査研究を行うこと。また、自分が選んだ施設以外に、生涯学習について学ぶ上での基礎的な知識を持つため、近隣の区民センター、公民館、図書館、博物館等の見学や利用、講座への参加、生涯学習施設のホームページの閲覧に努めること。
評価方法	<p>中間・期末のレポート50%、毎回の授業で実施するグループワークの中での発表や記述内容35%、社会教育施設のフィールドワーク・調査等の結果をまとめたプレゼンテーション内容15%。</p> <p>なお、レポートは中期・期末の2回双方の提出がない場合は、成績評価の対象とならない。</p>
課題・試験に対するフィードバックの方法	レポート提出以降の授業日、または授業アンケートのコメントフィードバック時に、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や、優れたレポート等の紹介を行う。
使用テキスト	オリジナル資料の配布
参考テキスト・URL	田中雅文、坂口緑、柴田彩千子、宮地孝宜『テキスト生涯学習-新訂2版:学びがつむぐ新しい社会』学文社2020
各自準備物	ワークショップにより授業を進めるので、各自、マジックインキ（色は自由、太さは細字より太いもの）を1本用意すること。
実習費	
その他	<p>講義のほか、必要に応じてグループワークにより授業を行います。</p> <p>履修にあたって、生涯学習の中で中心的な役割を果たす社会教育において重要とされる、「他者との協働学習」、「講師の講義のみならず、学習者どうしの主体的な学習」を意識してください。</p> <p>また、この授業では、他大学の学生、広大連携で参加の高校生がお互いに協働しつつ、参加者がグループに分かれて主体的に学習を進める学習スタイルも取り入れながら、生涯学習について学んでいく予定です。</p> <p>基礎教育 / 博物館学芸員課程（必修科目） 単位互換講座提供科目（UNITY、ひょうごコンソ）</p>